

今なぜボーイスカウトなのか！！

カブ隊・ボーイ隊隊長 M・A

2002年の始まりにあたり、スカウトであり同時にリーダーでもある者のひとりとして、今現在如何にスカウト活動が必要であるかについて、自分を語りながら考えてみたい。

私は子供の頃から集団活動は嫌いであった。小学校の運動会も学習発表会も出来れば関わりたくなかった。実際に会の当日に学校から逃亡したこともあった。遊びも独りで絵を描くとか模型を作るとか、また自分の家の庭や近所でぼんやりと周り自然を見ていることを好んでいた。青年になり山歩きをするようになって、いつも独りで歩いていた。当然、大人になっても世間的な義理の付き合い(職場・親戚関係・地域に係わらず)は極力避ける生活をしてきたし、現在もその傾向が強い。また、学校や町内対抗の運動会で熱中している人を見ると内心気持ち悪くなる。もちろん最頂のプロスポーツ選手やチームなど特に考えたこともない。さらに奉仕活動など、その人物の虚栄心と欺瞞を思い、吐き気を催す有り様であった。世間態を重んじる模範的な日本人から見れば、まさに自己中心的人物であろう。こんな私が、学者にはよくあるタイプではあるが、長女がガールスカウトにそして長男がボーイスカウトに入ること、集団活動と奉仕活動の権化？のようなスカウト運動のリーダーの一人になったのだから、皮肉なものである。人間は自分の性向と反対の運動に引かれることがあるという、よくある解釈も可能であろう。とりあえず言えることは、私も歳をとると共に、個人とその家族がその中で機能する社会共同体(地域や国家という)の重要性が肌身で感得されるようになって来たこと、そしてその気持ちを子供達に遊びと自然活動の中で教えることの必要性を理解するようになったことであろう。もっともそれ以前の問題として、私は気が弱いのと自然信仰的(アニミズム的)な傾向が強いので、自

分の子供がお世話になる自然活動を中心とする組織のお手伝いを頼まれると断れなかったというところが本音であろうか。それに、ボランティアで社会活動をしているといえ、まさに世間態が良いし、また学校や自治会の役員を断る理由としても最適ではないか。もう少し真面目に言えば、他人の子供と自分の子供が集団で活動している有り様を近くで見ることで、自分の子供の思い掛けない性格やまたその成長を、他人の子供達との比較で観察できることは非常に面白い。さらに、他人の子供のその両親も学校の先生も知らない優れた性向を知り、その成長を見ることは、リーダーの最大の喜びであるのかも知れない。

ともかく、ボーイスカウト・ガールスカウトというスカウト活動は、かつて存在した地域の年齢の相違する子供達から成る独自で自主的な遊びの組織を、大人達の指導の下で、模擬的に形成し、その模擬的な子供達の組織を出来るだけ子供達に運営させて逝くことで、社会共同体の中で生きる力を学ばせるのである。つまり、共同体の中での個人の位置付けと自己責任を感得し、自己主張と他者の意見を聞き取る行為により、他者との合意形成による共同体の維持と発展を導く力量を学び取れるように指導するのである。さらに、自然の真中での活動を中心とすることで、人間の反自然化しつつある文化・文明の優れた面と危険な面を共に感じ取り、まさに人類の奢りを知り、人間・人類が本来的にそこから生じた自然への畏怖のこころと共同体の絆が共に崩壊に向かいつつある今現在にこそ、今一度敢然と取り戻し、発展させることが必要なのではないだろうか。

最後に、洒落の判る人には、こうっておこう。馬鹿な大人を相手にするよりは、馬鹿な子供を相手にするほうが、ずっと希望が持てる、と。